



久慈直治公 追悼慰霊法要

「九戸政実の乱」について

天正十九年（一五九一）九月二十日、久慈城最後の城主・久慈備前直治公は、豊臣秀吉の命により派遣された「九戸戦討伐軍」によって、奥州栗原三迫（現宮城県栗原市）において斬首処刑されました。

このとき処刑された九戸方武将は

- ◆ 九戸 政実（九戸城主）
- ◆ 櫛引 清長（櫛引城主）
- ◆ 久慈 直治（久慈城主）
- ◆ 七戸 家因（七戸城主）
- ◆ 大里 親基（大里城主）
- ◆ 大場 昌次（大場城主）
- ◆ 一戸 実富（一戸城主）
- ◆ 円子 光種（円子城主）

の七名でありました。



三戸南部氏の一族とされる久慈氏の由緒履歴には、この『九戸の乱』によって滅亡したため不明な点が多いのですが、直治の五代前の備前信実の代に久慈城（新町館）を築き（推定一四七〇年頃）、以来約百二十年に亘って、この地域を統治したと言われております。

この乱が起こった原因は複雑ですが、要約すれば、豊臣秀吉の天下統一によって正式に南部領主となった南部信直に対し、従来の統治慣行を無視した処置を不服とする九戸政実・久慈直治等との軍事対立でありましょう。

結果的にこの戦は、豊臣秀吉の全面的な支援を受けた南部信直の一方的な勝利となり、以後前述の七名の諸将が治めていた地域は、南方方の支配を受けることとなりました。

九戸の乱後、四百二十年余経ちましたが、これまで南部家をはばかっていたのか、主将・九戸政実の本拠地である九戸村以外の地域では、正式に諸将のご供養がなされていないよううで誠に遺憾なことであります。

先頃、慈光寺と大川目公民館・大川目まちづくり協議会の発案によって、久慈直治公はじめ乱後処刑された諸将の墳墓を、遅ればせながら檀家・町内有志十九名で参拝焼香してまいりました。

地元・三迫には、首塚・首洗い池・九戸神社等の史跡が現存しておりますが、村人は塚を築き、今に至るまで香華を絶やさず丁寧に供養を頂いていることを目の当たりに



し、感銘を深くした次第であります。このたび、諸将の命日であります九月二十日に菩提寺である當山・本堂にて追悼慰霊法要を執り行いたく存じます。詳細はおってお知らせしますが、郷土の平安を念じて参戦しながら、武運つたなく戦に殉じ、今なお異境に眠る諸将を慰霊申し上げるため、多数の方の献香を賜りたくお知らせ申し上げます。合掌

（住職 高谷 剋行）



久慈備前直治公他諸将 追悼慰霊法要

平成24年9月20日(木)
(直治公ご命日)厳修

於、慈光寺本堂

信は莊嚴から

(輪袈裟を身につけましょう)

お仏壇に仏具をお飾りすることを「莊嚴する」と申します。真の信仰は正しい莊嚴からおこるといった意味で、「信は莊嚴から」または「信は莊嚴より生ず」という言葉があり、まず仏壇をきれいにすることが信心の始まりであるという意味です。

また、いくら想いがあるからと言っても、半袖短パンで葬儀に参列する人がいないのと同様に、クールビズ関係なく、黒の礼服に黒のネクタイを締め、暑さに耐えて皆さん会葬するはずですよ。

つまり、『気持ちを外観で表現している。』訳です。

さて、平成二十年の遊行上人さまによる御親教の際に、その記念品として『輪袈裟』を配らせて頂きました。

輪袈裟とは、在家用のお袈裟です。

お阿弥陀さまやお釈迦さまの衣である袈裟を身につけることは、仏の心・慈悲を身にまとい、その功德を「ご先祖さま」、もしくは「ご縁ある方やお世話になった方」への追善供養の気持ちを表す法衣なのです。

この仏弟子としての証である輪袈裟を身につけて、葬儀や法事・開山忌にご参列するようにしましょう。

また、仕事等で着替える時間がない念仏の場合でも、平服に輪袈裟を下げる事によって、ご遺族へ敬意と哀悼の念がきつと伝わるはずですよ。

寄付紹介

● 仏書「正信偈」表具

大森 竹之助 様(森下地区)

● 仏書「正信偈」額装

田子内 一徳 様(中田地区)



この書は、北海道千歳市に在住の池谷房子氏が東日本大震災でお亡くなりになられた方々を悼み「正信偈」中の千字を、一文字ごとに合掌称名して書き上げ、奉納されたもので、全長約4mにも及びます。本堂へ掲額するにあたって、表具を大森さんが、額装の作成を田子内さんが快く引き受けて下さいました。

● 玄関網戸取り付け他

北村 末次郎 様(森下地区)

大工仕事の他にも、庭木の剪定、ペンキ塗などの手間仕事を「私に出来る事なら。」と手伝って頂きました。寺族が行き渡らない点を助けてもらっております。

● 境内清掃及び雑草刈り払い奉仕

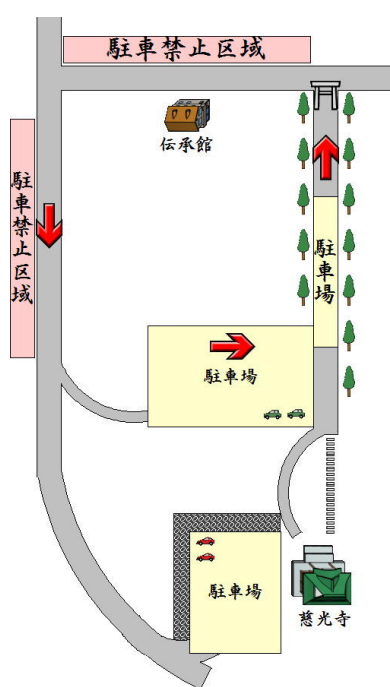
シルバー人材派遣センター有志 様

「寄付」というと金銭をイメージする方もいらっしゃると思いますが、このように大工仕事や草刈りなどの皆さん一人一人出来る事してあげたいという気持ちが集まって、お寺は何百年と続いております。この場を借りて感謝申し上げます。

お盆中のおねがい・お知らせ

お墓へのお供え物やゴミは必ず持ち帰りましょう。

お盆期間中の寺の駐車場利用については、左図参照して下さい。



お焚き上げ法要

日にち 八月十三日

場所 新墓地脇 立て札前

※お焚き上げをご希望の方は、前日までにお持ち下さい。

慈光寺からのお知らせ

法事の際の生花も

お墓にお供えしてあげて下さい。

これからは法事終了後に生花をお返し

致しますので、お塔婆と共にお墓に

お供え下さい。合掌

